

令和6（2024）年 くまもと県民カレッジ主催講座  
「戦争と平和コース 県北の戦争遺産」講演資料  
□日 時 令和6年10月16日（水）14：00～15：30  
□会 場 くまもと県民交流館パレア 会議室7

## 「熊本県北の戦争遺産に学ぶ ～平和のバトン 未来へ」 10/1版

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷和生

### 1 はじめに ～戦後79年の諸相～

- 戦後世代としての「私の視点」～近現代考古学・戦跡考古学との出会い～
- 戦争遺跡保存全国ネットワーク全国運営委員、空襲・戦跡九州ネットワーク事務局長
- 平和憲法を活かす熊本県民の会、菊池恵楓園ボランティアガイド、一般社団法人 くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会

### 2 熊本の戦争遺跡・遺産

#### (1) 戦争遺跡とは

- 全国の戦争遺跡は「約50,000」件、指定登録は「319」件  
2021年10月2日現在
- 熊本県内の太平洋戦争期の戦争遺跡総数は、多数の特殊地下壕を含めた「723件」
- 熊本県内の指定登録文化財は国148件、県383件、市町村3,382件、国登録文化財156件の計2,382件



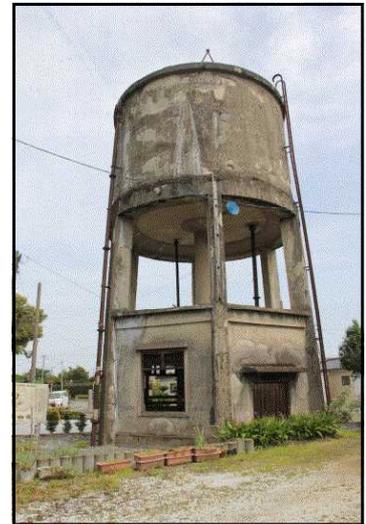
宇城市の戦争遺跡「永代橋梁」

#### (2) 西南戦争期の指定等 ※熊本県による悉皆調査は未実施

西南戦争遺跡群（国指定、熊本市・玉東町）、明德官軍墓地（熊本市）、七本官軍墓地（熊本市）、花崗山陸軍埋葬地（熊本市）、旧輜重兵六聯隊衛兵所（熊本市）、有栖川の宮御督戦の地（玉東町）、篠原国幹戦傷の地（玉東町）、城の原官軍墓地（南関町）、肥猪町官軍墓地（南関町）、陣内官軍墓地（水俣市）、下岩官軍墓地（和水町）、高瀬官軍墓地（玉名市）、田浦官軍墓地（芦北町）、峰崎官軍墓地（芦北町）の計14件

#### (3) 太平洋戦争期の指定等

「花房飛行場給水塔」（陸軍菊池飛行場高架水槽・菊池市指定有形文化財）、「永山の掩体壕」（陸軍人吉秘匿飛行場木製有蓋掩体壕・球磨郡あさぎり町登録文化財建造物）の2件。また、合志市の「黒石原飛行場奉安殿」は、保存修復事業を進めており、完了後に国登録文化財となる予定である。また、東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所変電所は、荒尾市が所蔵・管理している。



菊池市指定文化財「花房飛行場給水塔」菊池飛行場

#### (4) 熊本の「戦争の歴史」をたどる

～熊本に残された戦争の傷跡「七大特徴」～

※熊本県による悉皆調査は「未実施」

##### ①軍都熊本市の軍事施設

～熊本城から東部の大江・渡鹿地区への軍施設の移転～

##### ②九州で三番目に多い陸海軍飛行場

～陸海軍正規飛行場、本土決戦に向け特攻秘匿飛行場の実相～

##### ③東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所

～軍直営で石炭を原料とした黄色火薬の生産。小倉造兵廠へ～

##### ④三菱重工業熊本航空機製作所と学校工場・地下工場

～陸軍四式重爆撃機「飛龍」の生産～

##### ⑤本土決戦に向けての天草地区砲台、震洋等の特攻艇基地と兵站基地としての人吉地区の飛行場・地下工場・地下壕群

- 天草地区海峡封鎖の為の「平射海面砲台」と海軍特攻艇「震洋基地」、戦後接収写真
- 八代海での陸軍特攻艇「マルレ艇基地」の実態把握、佐敷国民学校への逗留
- 人吉海軍航空隊の歴史評価、九州本土での決戦の補給基地

##### ⑥県内各地に残る空襲・戦災の「被害の歴史」

##### ⑦朝鮮人や中国人、連合軍俘虜労働者、敵機捕獲搭乗員への「加害の歴史」

- 通称「田浦捕虜収容所」。使役企業は「東海電極株式会社田浦工場」で、「福岡俘虜収容所第六派遣所」が設置

- 捕虜収容所は、三回移転し、最後は工場から南橋を渡り海岸際に位置する。現地には建物基礎・井戸等が現存
- 内訳は、102名（米2・英97・NZ3名）、死亡3名
- 日本国は、「戦時中の労働力不足」を補うため、約37,000人を、全国130箇所で作役。死者は約3,500人
- 「俘虜待遇条約（ジュネーブ条約）」準用での「違反行為」
- 敗戦時での暴動抑止のため大牟田「福岡俘虜第二十五分所」へ6月30日に移動。使役企業は、電気化学工業株式会社大牟田工場



田浦捕虜収容所での1944年12月日本軍プロパガンダ「クリスマススイベント」

### 3 県北の戦争遺産

#### (1) 陸軍玉名（大浜）飛行場

※平和継承リーフレット『大浜飛行場 II』

##### ①沿革と概要

- 大刀洗陸軍飛行学校玉名教育隊、練習基地・錬成基地

##### ②空襲の被害

- 1945年5月10日（B29が二機）・13日（艦載機）の空襲

##### ③空襲の加害

- 1945年8月10日 米陸軍第5航空軍第507戦闘機隊第465中隊所属のP47「アール・グラハム」少尉機の玉名市永徳寺への撃墜と死体凌辱

##### ④特攻隊

- 九五式中間練習機による待機特攻「第九十・九十一振武隊」

##### ⑤何を未来につたえ、継承するのか

- 戦争の実相を凝縮する飛行場
- 有明中学校、大浜小学校、玉名町小学校での、約20年にわたる地域・平和学習。出前平和講座、戦時資料貸出キットの展開



大浜飛行場ユングマン練習機

#### (2) 東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所

※平和継承リーフレット『荒尾二造』二種

##### ①沿革と概要

- 隣接する大牟田との石炭コンビナート、黄色火薬等の生産

##### ②学徒生による勤労働員

- 旧玉名中学校、高瀬高等女学校（現北陵高校）他

##### ③残された戦争の遺構・遺物

- 変電所跡をはじめ、約30基の遺構等大
- 忠海製造所（毒ガス生産工場）関連施設と曾根製造所（毒ガス弾充填工場）関連施設等との関係性
- 陸軍毒ガス弾・炸薬の生産に関わる加害の歴史

##### ④戦後の接収と荒尾の心象風景

- 接収状況の解明、施設を競売し平和に変容し今にいたる

##### ⑤何を未来につたえ、継承するのか

- 市民グループ運営による「荒尾二造 平和資料館」運営
- 近代化遺産の「光」と「影」



荒尾二造の戦争遺構・変電所跡曾根製造所の冷凍室（茶1号・青1号保管用）、排風塔

#### (3) 陸軍菊池飛行場

※平和継承リーフレット『菊池飛行場を活写する』『菊池の空から』II』

##### ①沿革と概要

- 大刀洗陸軍航空廠菊池分廠、大刀洗陸軍飛行学校菊池分教所・教育隊、陸軍航空通信学校菊池教育隊 他
- 特攻の中継基地としての機能

##### ②空襲の被害・加害

- 1945年5月10日・13日（艦載機）の空襲被害

##### ③特攻隊

- 原田栞さんと第二十七振武隊、三人の少女と第七十六振武隊
- 九五式中間練習機による特攻「第九十六振武隊・薫風隊」

##### ④戦後接収写真

- 第2海兵師団による接収写真、現存建物と施設

##### ⑤何を未来につたえ、継承するのか

- 市民グループによる「菊池飛行場ミュージアム」運営
- 地域や諸学校への平和学習と支援活動



菊池飛行場教育隊の正門

#### (4) 逓信省熊本航空機乗員養成所・陸軍黒石原飛行場

※平和継承リーフレット『黒石原飛行場と奉安殿』

##### ①沿革と概要

- 逓信省熊本航空機乗員養成所

- 大刀洗陸軍飛行学校黒石原教育隊
- 特攻の中継基地としての機能、植木（木原野）秘匿飛行場との関連

②県内唯一の現地に現存する「奉安殿（ほうあんでん）」

- 皇民化教育の象徴
  - 逋信省様式奉安殿、多様な奉安殿像
- ③何を未来に伝え、継承するのか
- 合志の近代遺産



黒石原飛行場の奉安殿

4 空襲下の熊本

※平和継承リーフ『M76焼夷弾と熊本空襲』『空襲下の熊本』

(1) 第1回 熊本大空襲

- 昭和20年7月1日深夜、B29戦略爆撃機154機・夜間焼夷弾攻撃
- 全国中小都市への戦略爆撃
- 熊本市は全国160中小都市の「16番目の人口数」

(2) 第2回 熊本大空襲

- 昭和20年8月10日午前 B24・B25・A20・A26・P47・P38
- 継続した都市空襲としてだけではなく、沖縄移駐の陸軍航空群による「九州上陸作戦（オリンピック作戦）」前哨戦の位置づけ

①M76落下傘付き500ポンド大型焼夷弾

- ナバーム弾を含め多様な焼夷弾構成、徹底した攻撃
- ヒロシマ・ナガサキ「原爆」投下で帰結する爆撃思想

②眼下の熊本市街地、AIと戦時証言によるカラー化 “継承”

- 沖縄移駐の第5航空団第3爆撃群団の各爆撃機による攻撃
- 空襲に関わる「記憶の解凍」、証言の掘り起こしとその検証



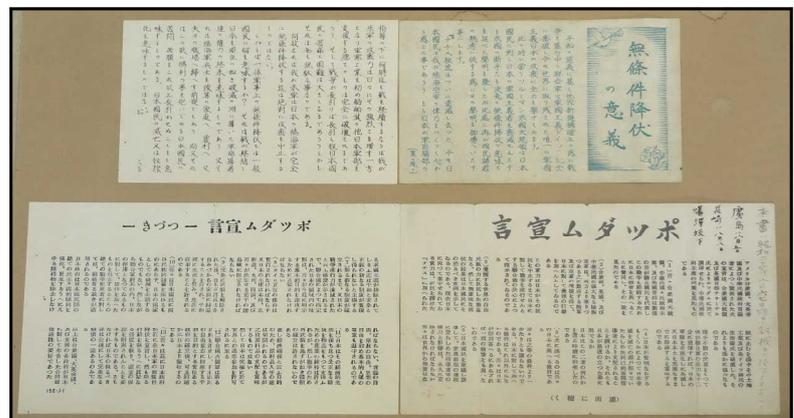
1945年8月10日第2回熊本大空襲、AIと証言でのカラー化

(3) 長崎への原爆投下と熊本

- 原爆投下16地点と候補地の一つが「熊本」、「3マイル候補地」
- 小倉への原爆投下の事実 これまでの「前日の八幡空襲煙幕」と新たな「日本側対空砲火」「芦屋基地防空隊」事実
- 本土決戦での九州各都市への原爆投下計画、模擬原爆（パンフ キン弾）の投下訓練
- 県内小学校での修学旅行「長崎平和学習の学び」の質を高め、熊本に近づける。

(4) 紙の爆弾「伝単（でんたん）」

- 昭和20年8月、熊本市・天草他「伝単五種」を投下
- 日本国民に告ぐ伝単、無条件降伏の意義伝単、ポツダム宣言伝単、トルーマン伝単 他 約50万枚
- 昭和二十年八月十二日熊本日日新聞に「熊本市に紙の爆弾 傳単の内容を喋れば敵の思想謀略」記事が掲載され。熊本市内での伝単投下を、8月10日「第2回熊本大空襲」当日が「初投下」とであると報じている。
- 戦場及び占領地、敵国（内地・銃後）への「情報戦」



- 本渡・杵宇土町に投下の「ポツダム宣言 伝単」 □昭和二十年八月十二日 熊本日日新聞「熊本市に紙の爆弾」
- 熊本で実際に投下された「伝単 二種」 両資料ともに右側が「現物」、左側が「複写」である。
- 上段「無条件降伏の意義」伝単 下段「ポツダム宣言」伝単 熊日新聞社新聞博物館所蔵

(5) 地方のまち「松橋空襲」と今も続く「ウクライナ戦争」 ※平和継承リーフ『松橋空襲』

①「松橋空襲とは」何か

- 熊本での「地方のまちへの空襲」を改めて実相を知る!
- 「川尻・緑川空襲と宇土空襲」を含め、鉄道等「インフラ攻撃」のわかりやすい姿

②戦争遺跡・鉄道遺産「永代橋梁」



左：松橋駅の惨劇 昭和20年7月27日の空襲様子  
夏目信彦氏著『記憶のなかの色紙』より  
右：第1番橋脚西面の機銃弾・弾痕状況

- 下部構造(躯体)は、橋脚2基・橋台2基で構成
- 上部構造は、桁連数三連の「三径間単純鋼桁(ガーダー)橋」、橋長40.74mを計測
- 九州鉄道時代の貴重な鉄道・近代化遺産であり、全体構造等の継続調査が必要
- 橋梁第一橋脚への「爆弾痕跡と機銃弾跡」の調査・測量、文化財として残し、活用する!

③墜落したB25と5名の搭乗員

- 墜落機体 North American 「B-25」 Mitchells J型機
- 第5爆撃機集団 第345爆撃機群団 第498戦隊所属機：沖縄伊江島基地
- 機体型番：4-31300 機体に通称は「エアパッチ」
- 墜落日：1945年8月7日
- 墜落地：旧鏡村「氷川河口・氷川左岸」
- 墜落機搭乗員  
主パイロット Robert G. Neal大尉 NY Buffalo出身(後列左 ロバート・ニール)  
サブパイロット Louis J. Winiecki, Jr大尉 NY Lancaster出身(後列右 ルイス・ウィニッキ)  
航法士 Richard S. Lane 大尉 NJ Ridgewood出身(前列左 リチャード・レーン)  
機関士 Robert W. Goulet 軍曹 NY出身(前列中 ロバート・グワレット)  
通信士 William Cohen軍曹 NY New York出身(前列右 ウィリアム・コーエン)



右：1945年8月7日、  
氷川に墜落したB25  
機の機長・搭乗員  
古牧昭三氏提供  
左：沖縄伊江島基地か  
ら離陸するB25機  
工藤洋三氏提供

④「今だから話せる」「もう話してもよからう」という戦争証言

Y a h o o 「未来に残す戦争の記憶」の公開の証言ビデオ

- 5分遅ければ・ 分部三友さん □墜落した血まみれ・ 塚本 太さん・古牧昭三さん
- 古賀昭代さん(85歳・当時国民学校4年生)の証言  
「若い米兵達は、後ろ手に縛られ引っ張られていた」「国防婦人会の約20人が、もんぺに鉢巻きを締め、薙刀を持つ姿に圧倒された」
- 塚本 太さん(82歳・当時国民学校2年生)の証言  
「米兵と対峙した父」「墜落時の米兵と住民」「芝口集落を歩く、5人の米兵・荷だを目撃」

(6) 西部軍第三事件、「敵機捕獲搭乗員」処刑

- 内地での捕虜飛行士は、「一般捕虜」ではなく、戦犯容疑「敵機捕獲搭乗員」
- 総数568人で、無事本国への生還者は303人
- 捕虜は熊本憲兵隊本部で取り調べを受けたのち、福岡西部軍司令部へ列車で連行される。
- 途中、荒木・筑紫駅付近で米軍機による銃撃「西鉄筑紫野駅銃撃事件」(1945年8月8日11時30分)を受け、連行中の憲兵1名が死亡する。幽閉されたのち15日に油山で処刑された。
- 1945年5月頃以降に西部軍司令部に収容された飛行士40~41人は、「日本人市民に対する無差別爆撃の罪」の理由で6月20日(第一事件)、8月10日(第二事件)、8月15日(第三事件)に3回にわたって処刑された。これらの事件を通称「西部軍事件」という。
- 搭乗員斬首事件裁判 (GHQ報告書第420号 再審記録第288号)

□裁判の期間：1948年10月11日～12月29日

## 5 オプション①「くまもと 慰霊の“軍人像”たち」



天草各地の慰霊の軍人像達 林邊家（栖本）、山崎家・福原家（栖本）、島崎家（大矢野）

## オプション②「進駐軍の見た熊本」

※平和継承リーフ『進駐軍の見た熊本』『進駐軍の見た熊本 II』



敗戦後の健軍飛行場での接收様子「緑十字マーク 大日本航空百式輸送機 43」

## 6 まとめ ～平和のバトン 未来へ～

□ウクライナ戦争、ガザ戦闘と重なる「太平洋戦争」「熊本の空襲」の姿  
特別軍事作戦＝満州事変、SNS＝プロパガンダリーフレット、捕虜＝戦時捕獲搭乗員 他

□史実に込められた「歴史の重み」、昭和の歴史の教訓化

□あらためて「加害と被害」の諸相を、県内事例から調べる！ 証言を重ねる！

□一人ひとりが戦争遺跡・遺産と向き合い「語り手」「継承者」として語り継ぐ

①戦争遺跡の調査、保存、継承・活用

②戦争遺跡・遺産は、貴重な歴史資料として「国民共有の財産“文化財”」

③庶民の戦時資料の調査と継承は「地域協働の平和学」

④広島「被爆体験伝承者」と長崎「平和案内人」による「非当事者による語り」の展開

□地域の特性を基にした熊本の「血」と「智」を！

□核廃絶への「理論と感性!」、平和継承のための「戦争実相と感性!」

□私たちひとり一人の、自分ごとの「新たな平和運動・活動」を！



連絡先

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表  
平和憲法を活かす熊本県民の会 代表幹事 高谷 和生

Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp

HP URL <https://www.kumamoto-senseki.net/>

# 子どもたちの見た戦争

## くまもと戦跡ネット戦時資料貸出キット

戦時資料貸出キット「子どもたちの見た戦争」は、2016年熊本地震での戦時資料レスキュー活動や本会活動に協賛いただいた方々からのご提供、九州ろうきん助成事業により収集した戦時資料です。

テーマごとにパッケージした戦時資料を「無料」で貸し出します。

県内諸学校での平和学習、職域団体等での平和活動、資料館での展示・学習などに利用できます。

今回は第1弾5キットで、写真パネルも一部には付きます。



### 貸出キット「子どもたちの見た戦争」第1弾セット



No1 ちいちゃんセット



No2 一つの花セット



No3 軍国少年少女セット



No4 勤労動員セット



No5 金属代用品セット



・文化遺産ネットワーク

hoto-senseki.net/



### 貸出キット規約

- 貸出は、申込み順で「無料」です。基本、熊本県内の学校・職域団体等の限定です。
- 貸出は、玉名市立願寺の高谷（たかたに）自宅での「受取り・返却」となります。
- まずは、メールで高谷（takayanagi912@yahoo.co.jp）まで、各セットの空き状況等をお問い合わせください。併せて、授業形態や授業内容の確認もお願いします。
- 希望等の調整のため、予定日「1ヶ月前」頃までにご連絡ください。
- 実施予定日の「前10日・後10日の計21日間」貸出となります。
- 通年で貸出を行いますが、毎年度4月1日からの受付となります。
- 申請書は本会HP「<https://www.kumamoto-senseki.net/>」からダウンロードしてください。
- HP右側バナーの「戦時資料貸出キット“子どもたちの見た戦争”」で概要を確認ください。
- 本貸し出しシステムは、9月上旬より開始予定です。HPをご確認ください。

### ■くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークとは？

平成17年5月に「玉名荒尾の戦争遺跡をつたえるネットワーク」として活動を始め、平成26年8月に組織拡大して「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」として新たに活動を始めました。  
熊本県内に所在する「戦争遺跡」に焦点をあて、その記録保存や検証、地域の文化遺産としての価値付け、後世に「戦争の記憶を語り継ぎ、平和の大切さを学ぶこと」を目的に活動しています。また戦争遺跡保存全国ネットワークや、空襲・戦災を記録する会全国連絡会議との連携で、活動の幅を全国にも拡げています。



- 高谷和生著『くまもとの戦争遺産 戦後75年平和を祈って』熊日出版
- 「第42回熊日出版文化賞大賞」「第34回地方出版文化賞最優秀賞」の受賞
- 熊本県内の戦争遺産「249件」を、精査し記載

新刊案内 くまもとの戦争遺産 戦後75年 平和を祈って

熊日出版

新刊書籍のお知らせ

2020(令和2)年8月15日発行

# くまもとの戦争遺産

## 戦後75年 平和を祈って

たかたにかず お  
著者：高谷和生

(くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表)

自費出版

仕様：A4判、並製本、276ページ

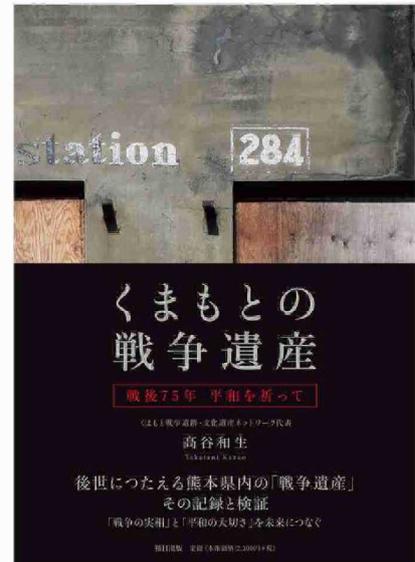
発行：高谷 和生

制作・販売：熊日出版(熊日サービス開発株式会社 出版部)

定価：本体価格2,300円+税

ISBN：978-4-908313-65-3 C0020

AMAZON、熊日出版 (096) 361-3274 (土日祝を除く9時~17時)、熊日出版ホームページからもご注文できます。



◆内容◆

### 後世につたえる熊本県内の「戦争遺産」。その記録と検証

- 第1章 軍都熊本
- 第2章 旧陸海軍飛行場
- 第3章 本土決戦軍施設
- 第4章 県下の軍工場・軍需工場
- 第5章 奉安殿・奉安庫
- 第6章 慰霊碑 他
- 第7章 県下空襲・航空資料
- 第8章 連合軍捕虜収容所
- 附章
  - 1 熊本県内の戦争遺跡資料館・平和資料館・軍事資料館
  - 2 くまもと戦争遺産ガイドマップ
  - 3 くまもとの戦争遺産(戦争遺跡・遺構・遺物等)一覧
  - 4 くまもとの戦争遺産 参考文献

【著者プロフィール】

1954年熊本県玉名市生まれ。別府大学文学部史学科考古学専攻課程卒業。熊本県教育庁文化課にて埋蔵文化財発掘調査等を担当。主な文化財調査報告書として熊本県では『下山西遺跡』『柳町遺跡Ⅰ』等を、苓北町では『内田皿山窯跡』の報告がある。

その後は近代化遺産・近現代遺跡の報告として『子どもと歩く熊本の戦争遺跡 県北編・県南編』『熊本の戦争遺跡』『熊本の近代化遺産 県央編・県北編・県南編』を分筆。あさぎり町『陸軍人吉秘匿飛行場』では県内初の戦争遺跡調査報告を担当する。現在は、くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク代表。戦争遺跡保存全国ネットワーク全国運営委員。空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会共同代表。肥後考古学会幹事。